公共下水道の処理開始

寺戸町・森本町の一部地域

本年年度の下水道整備に伴い、二月二十三日から寺戸町二枚田・岸ノ下の一部と森本町上森本・下森本・春日井・四ノ坪・東ノ口・下町田・佃の一部の地域で下水道の処理が開始されました。

この地域は一五・九ヘクタールの面積で、五百九十一戸、二千六十七人がお住まいになっています。

処理開始地区の方は、開始日から三年以内に水洗工事、排水設備工事をすることが義務づけられています。

また、工事の依頼は、必ず、表の向日市排水設備工事公認業者にしてください。

なお、現在工事中の区域の方は、近く処理開始します。

※水洗工事・排水設備工事の単価は、衛生陶器類などの値上がりのため、四月一日から改正します。

▼お問い合わせ　下水道室管理普及係

向日市排水設備工事公認業者

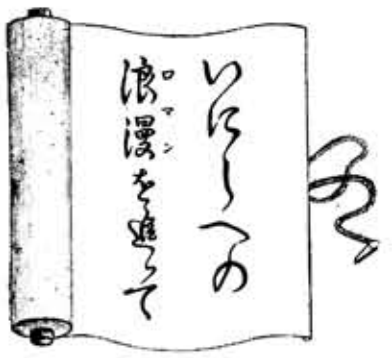
公認業者名	住所	電話
冨安水工店	森本町下森本18-12	921−4820 934−2280
水道センター	寺戸町南垣内34	932−2681
向日水道	寺戸町向畑51-1	934−2035
木下工業所	物集女町堂ノ前18	921−6581
高本管工 向日市出張所	寺戸町八ノ坪1-7	922−4030
小原工業所	寺戸町南垣内62-6	933−7201
太成工業 向日市営業所	寺戸町二ノ坪8-115	933−2392
松尾設備工業 向日町出張所	鶏冠井町沢ノ西2-80	922−6712

市長と話す日

日頃、市長と話す機会のない人に、直接市長が要望や相談に応じます。

▷とき　3月19日（土）　午前10時〜正午

▷ところ　市民相談室



市史編さん活動日誌から㊱

今月の末ごろには『向日市史』の上巻がようやくでき上がり、つづいて下巻の刊行準備にとりかかることになっている。その『向日市史』下巻では近世の歴史につづいて、現代史や現在の向日市の地理的な特色や民俗の特徴などについても考えることになっている。市民文化の特色の分析もその課題の一つになっているのである。そこで今日は現在の向日市民の考え方の一端を示す興味深い資料を紹介してみることにしよう。『まちづくりのための住民意向調査報告書』というのがそれである。

この報告は、昭和五十五年十月に向日市総合計画策定委員会が、無作為に抽出した一〇〇〇世帯に対して行ったアンケートの結果をまとめたものである。

回答を得た世帯は六五一世帯。そのうち戦前からの居住者は僅か一二%に対し、昭和五十一年以降に向日市に来住したものは二九%、四十六〜五十年の来住者は二一%を占め、最近の転住者が圧倒的に多いことがわかる。これらの転住者の前住地は京都市（四八%）が多いが、向日市内というのも一八%あり、市内移動が少なくないことが注目される。また、現住地に長く住み続けたい意向をもつ世帯は四七%、これに当分は住みたいという世帯（三四%）を加えると向日市民の定住指向は八〇%を超える高い数値となる。向日市が新しい住宅都市としての方向を歩まねばならないのは、このような市民の強い意向が存するからである。

では、市民は現在の向日市の生活環境をどのようにみているだろうか。全体としては「まあまあだ」という評価を与えながら、個々の点については「手軽に娯楽がたのしめない」「高級店・専門店が少ない」「火災が起きたときに類焼・延焼の危険性が大きい」などの点に大きな不満があり、その他「体育館や運動場などのスポーツ施設や病院などの医療施設の整備」にもかなりの不満を示している。これに対し「水の量や質の良さ」など向日市の自然の豊かさについては市民は高く評価している。これらの評価は急速に発達した大都市近郊の住宅都市の特色を遺憾なく示しているようである。

ところで、現在の生活環境についてこのような評価を与えた市民は、行政に対し何をのぞみ、都市の将来像をどのように考えているだろうか。向日市の町づくりの中で最優先すべき施策は何かを問うと、住環境の整備二七%（具体的には公共下水道の整備とミニ開発規制が過半を占める）と交通体系の整備二四%（その中では歩道・自転車道などの生活道路の整備が第一位）の二つが過半を占める結果になっている。ついで福祉・保健体制の整備（一一%）、水資源の確保（九・五%）、文化・教育環境の整備（九・二%）があげられ、産業基盤の整備は僅かに二・六%を占めるにすぎない。これは市民の意向がどの方向を指しているかをよく示す事実であろう。

つまり市民がイメージとして抱いている向日市の都市像は「豊かな自然環境にめぐまれ、通勤・通学や日用の買物などには便利だが、公共施設の整備が遅れている」住宅都市の姿である。そうして、この自然の豊かさを守り、住みよい町づくりが行われ、長くこの地に住みたいというのが、新しい市民たちの抱く共通の強い願望だといえそうなのである。

市民の多くは長く向日市に住みたいと考えている

——市民の意向調査の結果から——

佐々木 高明（国立民族学博物館教授）

移動図書館「あゆみ号」の利用方法が変更

移動図書館「あゆみ号」の利用方法が、4月から、向日市立図書館開館（昭和59年11月予定）まで、次のように変わります。

ご不便をおかけしますがご了承ください。

▼巡回日時　毎月1回第2水曜日　午前10時〜正午

▼場所　寺戸公民館前

▼貸出冊数　「あゆみ号の本」と「寺戸公民館の本」を合わせて2冊まで（どちらかを2冊でも良い）

▼貸出期間　2週間以内（返本は寺戸公民館へ）

※登録は寺戸公民館でしてください

◎寺戸公民館図書室は、毎週水曜日、午前10時から正午、午後1時から4時30分の間、開室していますのでご利用ください。

▼お問い合わせ　中央公民館☎932−3166・寺戸公民館☎933−0031

昭和58年度 消費生活モニターを募集

経済課では、昭和58年度の消費生活モニターを募集しています。

仕事の内容は、消費生活に関する意見・要望などを寄せていただくほか、関心のあるテーマについて学習（講座・工場見学など）しその結果などを発表したり物価調査などを行ったりします。私たちのまわりに起こるいろいろな消費者問題についていっしょに考えたり、学習したりしてみませんか。

▼応募資格　市内在住の20歳以上60歳までの女性で消費者問題に関心のある方

▼任期　2年間

▼募集人員　7名

▼応募方法　3月22日（火）までに経済課まで

公園に手作り花壇を 北淀井公園に第一号完成

二月二十日、上植野町の北淀井公園で、太田町自治会と太田町子供会のメンバー約二十人が、花壇づくりを行いました。

市では昨年十月から、緑化と住民のコミュニケーションづくりにと、「材料を提供しますので、公園に花壇をつくりませんか」と呼びかけていましたが、これに太田町自治会が応募し、トップをきっての花壇づくりとなったものです。

完成した花壇は、公園の東側、縦一・四m、横三・四mのレンガ造り風のもの二つで、パンジー七十五株が植えられました。

市では引き続き、公園内の花壇づくりを募集しています。

▼申込み・お問い合わせ　都市計画課

3月の行事予定

老人福祉センター

◇休館日
6日（日）・14日（月）・20日（日）・21日（祝）・28日（月）

◇お年寄りよろず相談
1日（火）　午後1時30分〜3時30分

◇血圧測定
3日（木）・17日（木）　午後1時30分〜3時30分

◇独居老人昼食会
4日（金）・18日（金）

◇老人セーフティクラブ
4日（金）　午後2時〜3時

◇高齢者職業相談
8日（火）　午前10時〜午後4時

◇防火訓練・講演・映画
10日（木）　午後1時30分〜3時

◇健康相談
11日（金）・25日（金）　午後2時〜2時30分

◇映画・落語（ビーチクラブ）
13日（日）　午前10時30分〜午後3時

◇清掃の日
3日（木）　午前10時30分〜11時30分

ことばきこえの教室㉚

「ことばの検査」について

ことばきこえの教室では、毎年11月ごろ各小学校で行われる新入児の就学時検診のときに「ことばの検査」もあわせて実施しています。

この検査のねらいは、なるべく早期にことばの障害を発見し、早い時期になおしてしまおうというものです。

また、就学時検診を受ける子どもは、年齢的には5歳8か月から6歳8か月のころですが、この時期はちょうど発育の完成期にあたっており、検査をするには一番いいのです。

検査の内容は、ひとりずつ7枚の絵カード（リンゴ、スイカ、ツミキ、ジテンシャ、ゴハン、ゾウ、ヒコーキ）を見せ、それらの名まえをいわせるという簡単なものです。これらの単語の中には日本語の主な発音が含まれています。

この検査で発音に問題があれば、相談カードをお渡しし、個別にことばの教室での相談を受けられるようお勧めしています。

今回（昨年11月）の検査では873名中23名の相談があり、内12名が通級を開始しました。もうすでに指導を終了した子どももいます。

（この欄についてのご感想・ご質問・ご意見をお寄せください）

ことば・きこえの相談
▽とき　毎週土曜日　午前中
▽ところ　第6向陽小
☎934−0403

（ゆずります）

剣道具一式（小学生用）…1件　ホーローバス……1件

学習机（小学生用）……1件　バイク（400cc）……1件

（ゆずってください）

ベビーバギー・ガスストーブ・英文タイプライター・裁断台

ベビーベッド